

第 63 回パグウォッシュ会議世界大会及び 広島県主催イベントの開催結果について (被爆・終戦 80 年「世界のリーダーが集い、未来と平和を語るプロジェクト」)

1 要旨

核兵器廃絶などに取り組む世界の科学者が集う「第 63 回パグウォッシュ会議世界大会」が 11 月 1 日から 5 日に開催され、大会閉会日に、同会議に参加した世界トップレベルの科学者をパネリストとして迎え、広島県主催の公開イベントを開催した。

2 現状・背景

科学的見地に基づく、核兵器廃絶に向けた力強い発信を行う機会となるよう、広島市と連携してこの会議を支援した。あわせて、公開イベントの開催により、核兵器廃絶に向けた本県の取組に対する賛同者拡大を目指した。

【参考】パグウォッシュ会議について

昭和 32 年（1957 年）以来、核兵器廃絶を始めとする科学と社会の諸問題と取り組んできた、世界の科学者の集う組織。平成 7 年（1995 年）にノーベル平和賞受賞。1～2 年に 1 度実施される世界大会では、世界のオピニオンリーダー、研究者が集まり、核兵器と戦争の廃絶について議論・発信している。

3 第 63 回パグウォッシュ会議世界大会について

(1) 開催期間

令和 7 年 11 月 1 日（土）～11 月 5 日（水）

(2) 場所

広島国際会議場

(3) 実施主体

パグウォッシュ会議（Pugwash Conference on Science and World Affairs）

(4) メインテーマ

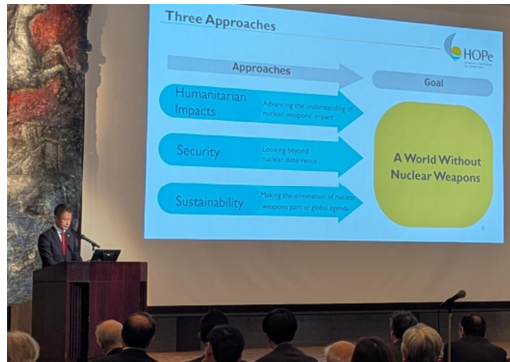
被爆から 80 年—今こそ平和、対話と核軍縮を

(5) 参加者数

約 150 名（世界 38 か国からの招待者）

(6) 内容

別紙 1 の会議スケジュールにより実施され、最終日の 11 月 5 日（水）に、第 63 回パグウォッシュ会議評議会により採択された「広島宣言」（別紙 2）が発表された。



4 広島県主催イベント（公開シンポジウム）について

(1) 開催日

令和7年11月5日(水) 17:00～18:30

(2) 場所

広島国際会議場 ダリア（広島市中区中島町1-5）、オンライン配信（日英同時通訳）

(3) 実施主体

広島県・へいわ創造機構ひろしま(HOPe)

(4) テーマ

核抑止からの脱却を目指して

(5) 登壇者の発表内容

【モデレーター】

中村 桂子氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター 准教授）
（発表）・パグウォッシュ会議世界大会の報告

【パネリスト】

① アナ・マリア・セト・クラミス博士

（国連「核戦争の影響に関する独立科学パネル」議長／国際原子力機関（IAEA）元副事務局長）
（発表）・核抑止に頼る危険性～「国連 核戦争の影響に係る科学者パネル」から
・核拡散の危険性について～IAEAでの経験から

（要旨）

- 世界は冷戦時代に受け継がれた核抑止論から脱却すべきである。この歪んだ概念は、人類に何の利益ももたらさなかったばかりか、より危険な道へと我々を導いてきた。
- このため、私が主導する国連「核戦争の影響に関する独立科学パネル」では、本格的な研究を実施し国連総会に最終報告書を提出すること、更には、意思決定者や若い世代を含む一般市民に結果を周知することに尽力していきたい。



② フランク・フォンヒッペル博士

（プリンストン大学科学・グローバルセキュリティプログラム上級研究物理学者及び
公共・国際問題学名誉教授）

（発表）核抑止に頼らない安全保障へ移行するには

（要旨）

- 核抑止に頼らない安全保障に向けて、2点提案したい。
 - ・ 核兵器の先制不使用政策であり、核兵器ゼロに向けた次の一步となり得る。
 - ・ ゼロに至るには長い道のりが残されているが、最終的な課題は、全ての核兵器が破壊されたことを検証することである。



(6) パネルディスカッション

パネリストの報告を踏まえ、核兵器廃絶に向けては、核に関しての秘密のない世界を作っていく重要性が指摘され、更には、これを見守る市民参加の仕組みづくりの提案や、核抑止論におけるコスト面での議論について、抑止が破綻した場合に取返しがつかない点が考慮されていないことなどについて、意見が交わされた。

(7) 参加者

128名（オンライン参加者を含む）

5 成果

- パグウォッシュ会議世界大会では、核軍縮に向けた様々な課題について議論され、「広島宣言」として、対話の重要性や核兵器への依存を排除することを始めとした、核兵器廃絶に向けた提言がとりまとめられるなど、科学的見地に基づき、核兵器廃絶に向けた力強い発信を行っていただいた。また、一部のセッションは公開され、核兵器廃絶に向けた諸課題などに対する県民の理解促進の一助となった。
- 県主催の公開シンポジウムでは、核軍縮・核不拡散分野で世界を牽引されてきた科学者を招き、核抑止に依存する危険性や核抑止に頼らない安全保障へ移行するために必要なことなどについて議論を行い、科学的観点からも核抑止の問題を考える必要性について確認できた。
- 今後は当シンポジウムの動画をウェブサイトに掲載するなどして、本県の取組を継続的に発信していく。

